

東京藝術大学

令和3年度 財務レポート

(令和3事業年度 令和3年4月1日～令和4年3月31日)



TOKYO GEIDAI

東京藝術大学の使命と目標

東京藝術大学は、その前身である東京美術学校、東京音楽学校の創立以来130余年間、我が国の芸術教育研究の中枢として、日本文化の伝統とその遺産を守りつつ、西欧の芸術思想及び技術を摂取、融合を図り幾多の優れた芸術家、中等教育から高等教育に亘る芸術分野の教育者・研究者を輩出してきました。

こうした歴史的経緯を踏まえ、我が国唯一の国立総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、我が国の芸術文化の発展について指導的役割を果たすことが、東京藝術大学の使命であると考えています。

また、この使命の遂行のため、以下のことを基本的な目標としています。

- ・世界最高水準の芸術教育を行い、高い専門性と豊かな人間性を有した芸術家、芸術分野の教育者・研究者を養成する。
- ・国内外の芸術教育研究機関や他分野との交流等を行いながら、伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進する。
- ・心豊かな活力ある社会の形成にとって芸術のもつ重要性への理解を促す活動や、市民が芸術に親しむ機会の創出に努め、芸術をもって社会に貢献する。

東京藝術大学 NEXT 10 Vision



TOKYO GEIDAI

革新的であること

—もっと 新しい、独創に向けた挑戦を—

多様性があること

—もっと 幅広い、才能が刺激し合う場を—

国際的であること

—もっと 世界へ、日本の芸術文化の発信を—

平成29年10月、東京藝術大学は創立130周年を機に、今後10年歩むべき方向性を全学的に議論し「東京藝術大学 NEXT 10 Vision」を策定しました。これからの10年、東京藝術大学はこの3つのビジョンに向かって、“オール藝大”体制の下、力強く進んでまいります。



第3期中期目標期間におけるビジョン

第3期中期目標期間（H28～R3年度）においては、第3期中期目標・中期計画および学長宣言2016において、以下の目標を掲げ、大学改革や機能強化に取り組んでいます。

- ・芸術が持つ無限の可能性を確信し、豊かで創造性に満ちた社会を実現する
- ・世界最高峰の芸術大学への飛躍を目指し、日本の芸術文化力の向上に資する
- ・芸術の魅力や素晴らしさ、芸術大学の価値・存在意義を証明していく

実現のためのアクション（大学改革・機能強化推進戦略2016）

教育・研究

世界トップアーティストの戦略的育成の推進

新たな大学院組織整備、海外連携大学等との国際共同プロジェクト、早期教育の拡充

国際的芸術教育研究拠点の形成

国内外の大学・研究機関等とのネットワーク強化、海外派遣・受入の促進

革新的アートイノベーションの創出

産学官連携・分野融合による学際的研究を推進

入試改革・高大接続モデルの構築

国際バカロレア資格活用等新たな選抜方法、音楽学部飛び入学等新たな高大接続モデル

キャリア支援プログラム・経済的支援の強化

卒業後も含めたキャリア支援、新たな奨学金制度等経済的支援の充実

社会連携

アートプロジェクト・早期教育プロジェクト等の全国展開の推進

地域の芸術文化潜在力の活かした全国的な活動展開

産学官連携強化・パートナーシップの構築

全国芸術系大学コンソーシアム、大学・研究機関・産業界・自治体とのパートナーシップ構築

芸術の力を活かしたソーシャルプラクティスの推進

復興支援や共生社会の実現に向けたソーシャルプラクティスの推進

大学運営

ダイバーシティな大学環境整備・システムの構築

多様な人材に対応した支援やキャンパス機能の強化

教育研究・芸術活動成果の社会還元等プロモーション活動の実行

クラウドファンディング、藝大アートプラザ等、芸術活動成果の戦略的発信

持続可能型キャンパスマネジメントシステムの確立

中長期的なキャンパスグランドデザインの構築

経営力強化・財務運営基盤の構築

学内資源の合理化・再配分、戦略的ファンドレイジング実施

同窓生・支援者等とのネットワーク基盤の構築

同窓生との持続的・発展的な交流確保、支援者との緊密な連携協力関係の構築

東京藝術大学の基礎情報

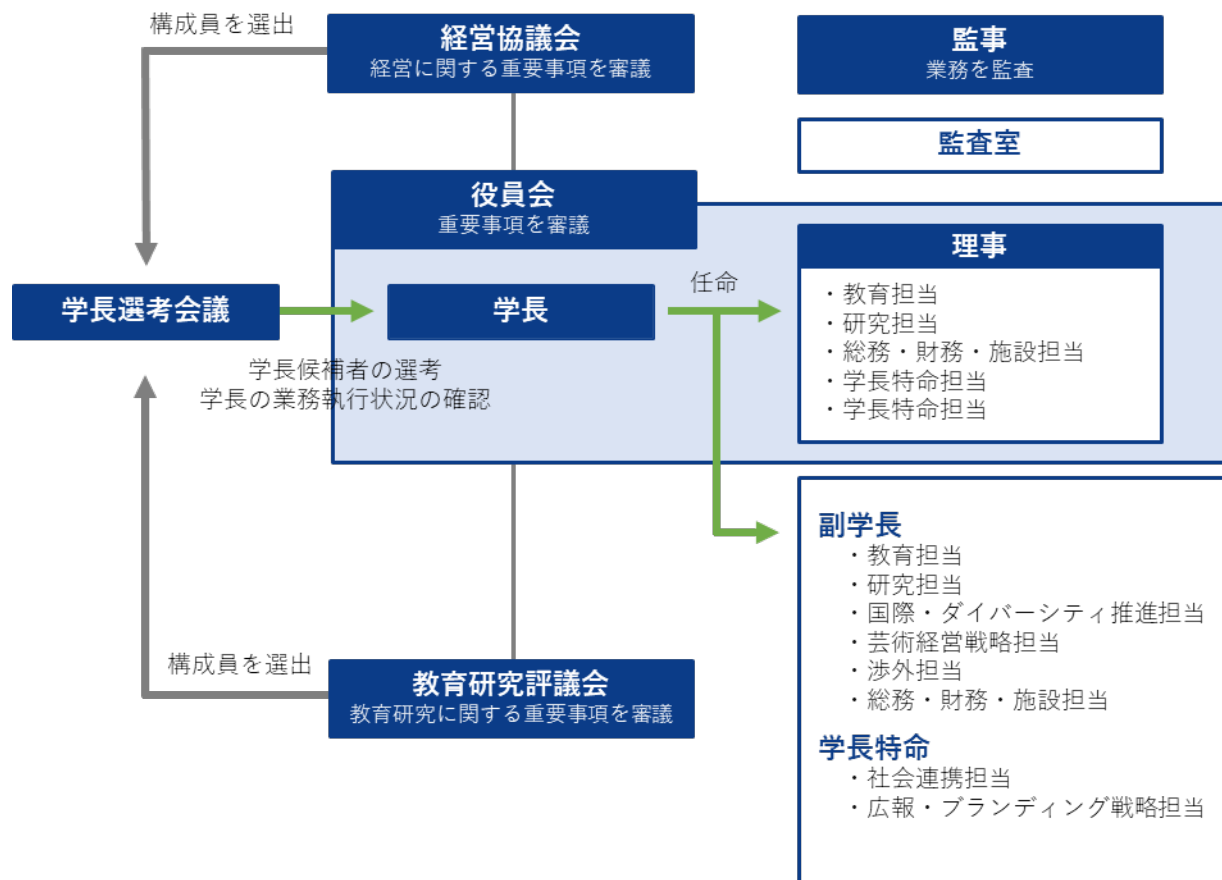
学生数					
	美術	音楽	映像	国際芸術創造	合計
学部	1,009名	995名	-	-	2,004名
大学院（修士）	588名	296名	135名	30名	1,049名
大学院（博士）	157名	63名	18名	24名	262名
別科	-	51名	-	-	51名
附属高等学校	-	113名	-	-	113名

学位授与数・修了者数・卒業者数					
	美術	音楽	映像	国際芸術創造	合計
学部	212名	237名	-	-	449名
大学院（修士）	200名	106名	62名	14名	382名
大学院（博士）	34名	15名	1名	2名	52名
別科	-	19名	-	-	19名
附属高等学校	-	40名	-	-	40名

※論文博士を含む

教職員数		土地面積		
教員	251名	校地	建物延	土地
職員等	168名	上野校地	96,463㎡	69,365㎡
合計	419名	取手校地	20,341㎡	164,095㎡
国際交流		横浜校地	4,667㎡	1,927㎡
		千住校地	6,546㎡	4,045㎡
		奈良・古美術研究施設	1,036㎡	1,792㎡
		松戸・国際交流会館	1,592㎡	2,088㎡
		東和・藝心寮	8,846㎡	7,811㎡
		愛住・美術愛住館	579㎡	350㎡
		合計	140,070㎡	251,473㎡
		所蔵品・楽器・蔵書		
		美術工芸品・標本・資料	30,339件	
		楽器	2,801点	
		蔵書冊数	402,126点	
		雑誌	4,996タイトル	

※学位授与数・修了者数・卒業者数は令和3年度実績
それ以外は令和4年5月1日現在の実績を示す



部局	事務局
・学部 ・美術学部 - 事務部 ・附属古美術研究施設 ・附属写真センター ・音楽学部 - 事務部 ・附属音楽高等学校 ・藝大フィルハーモニア管弦楽団 ・大学院 ・美術研究科 ・音楽研究科 ・映像研究科 - 事務部 ・国際芸術創造研究科 ・大学別科 ・附属図書館 - 事務部 ・大学美術館 - 事務部 ・社会連携センター ・言語・音声トレーニングセンター ・演奏芸術センター ・保健管理センター ・芸術情報センター ・藝大アートプラザ	・総務課 ・戦略企画課 ・国際企画課 ・社会連携課 ・学生課 ・施設課 ・千住校地事務センター



澤和樹学長ゆるキャラ
「カズキチャマ」

令和3年度の主なTOPIC

「東京藝大デジタルツイン」をはじめとしたデジタルを活用した教育研究の推進

令和2年度に「芸術の新しい場所」として創設した「東京藝大デジタルツイン」について、令和3年度は更に取組を推進し、バーチャル空間における活動やコンテンツの発信の基盤となるWebプラットフォームをリニューアルするとともに、

3Dスキャナや配信スタジオ・機材を新たに整備し、教員・学生が教育研究活動や各自の制作・発信に活用することができる環境を整備しました。



配信スタジオ 内観

また、デジタルツールの使い方やデジタル社会に関する新しい概念や出来事、遠隔授業に係るFD(Faculty Development)など、教職員を対象とした勉強会を定期的で開催しました。これにより、レーザーカッターや3Dプリンター等のデータを物理的造形に繋ぐデジタルファブリケーション機器に加え、物理環境をデータ化する環境と、それらを活用した研究および制作・発信をサポートする体制が構築され、**本学におけるデジタル技術を活用した教育研究が更に充実しました。**

「東京藝大アートフェス 2021」による若手アーティストの活躍・支援の促進



令和3年3月から5月にかけて、コロナ禍で苦しむ本学出身者（在学生を含む）を対象に、新たな作品発表の場を提供し、育成・支援を行うため、オンライン上で「東京藝大アートフェス2021」を開催しました。

203人の若手アーティストによる310点の応募作の中から選出された119点が特設Webサイトで発信され、一定期間の公開後、本学教員およびゲスト審査員による審査を経て、**37名の受賞者が決定し、賞及び賞金が授与されました。**

ゲスト審査員には、秋元康（作詞家）、大野和士（新国立劇場芸術監督、東京都交響楽団音楽監督、バルセロナ交響楽団音楽監督）、隈研吾（建築家）、コシノジュンコ（ファッションデザイナー）、さだまさし（シンガーソングライター、小説家）、佐藤卓（グラフィックデザイナー）、葉加瀬太郎（ヴァイオリニスト、作曲家）が名を連ね、**本学の学生や卒業・修了生の様々な作品や演奏を国内外に広く発信する機会**となりました。また、5月には「東京藝大アートフェス2021公開ウェビナー」を開催し、受賞作品の発表と東京藝大教授陣によるスペシャルトークイベントを実施しました。

東京藝大アートフェスは、美術館で絵を展示する、音楽ホールで演奏会を開く、映画館で映像を上映する、という建物の中で作品を発表するという手段ではなく、**美術も音楽も映像もデジタルデータにすることによって、同じプラットフォーム上に並べ、異なる研究領域が発表の場を共有することによって、互いに横断的に刺激し合うことがこれまで以上に活発になり、新たな表現が生まれてくる大きなきっかけ**となりました。加えて、ソーシャルメディアとも連携することで、国内のみならず海外まで含めた多くの方の目に留まり、アーティストと興味を持った支援者とを直接繋ぐことが可能な仕組みとしました。

令和3年度の主なTOPIC

「SDGs×ARTs」をテーマとした社会実践の推進

現代社会における芸術の役割・あり方や新しい可能性を発信し、実践によって示すことを目的とする『東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト』の取組として、「アートによるSDGsへの貢献」を全学的に推進しました。

SDGsが示す17の目標と169のターゲットに貢献する企画の公募

本学の在学学生、卒業・修了生、研究室を対象とした公募により企画提案を募り、132件の申請の中から、SDGsに係る外部専門家も参画した審査によって58件を選出し、企画実施のため若手芸術家の支援を目的としたクラウドファンディング等を原資として、合計2,000万円規模で助成しました。



<https://iloveyou.geidai.ac.jp/>

企画の例

支援が必要な子どもたちにも演奏会に参加する機会を障がいを持っていることが理由で、普段自由に演奏会に行けない子供たちにも音楽を楽しみ、クラシック音楽に興味を持って欲しいという思いから、SDGsの『質の高い教育をみんなに』を目標としたオンライン・コンサートを企画・実施。

生き物の多様性の素晴らしさを伝える展覧会の開催

生き物をモチーフとしたガラス作品を制作・展示。魅力的な生き物の形態を写しとったガラス作品を通じて、生物多様性の尊さを発信。

SDGs×ARTs展

十七の目的の素には芸術がある。



2021.7.22(木・祝)→8.31(火)
東京藝術大学大学美術館 本館展示室3・4
観覧無料・予約不要

<https://www.sdgsarts.geidai.ac.jp/>

「SDGs×ARTs」展の開催

令和3年7月から8月にかけて、本学・大学美術館において、『「SDGs×ARTs」展 十七の目的（もと）の素（もと）には芸術がある』を開催しました（入場者数4,646人）。

『SDGsの17の目標の中に何故「芸術」はないのか？』をテーマとして、「芸術はSDGsに接続できるのか？」という問いについての様々な取り組みや試行錯誤のプロセスを発信することを目的とし、上記公募で採択された企画の中から22件について、取組内容や成果を発信する展示としました。

展示空間の3Dスキャンを含むアーカイブをオンライン上で公開しており、「SDGs×ARTs」の実践を引き続き国内外に発信しています。

「SDGs×ARTs」を考えるウェビナーおよびオンライントークイベントの開催

令和3年8月3日、『「SDGs×ARTs」展 十七の目的（もと）の素（もと）には芸術がある』の関連イベントとして、「東京藝術大学×東京大学 ～アートを通してSDGsを考える～」と題したウェビナーを開催しました。本学からSDGs推進室長の国谷裕子理事、日比野克彦美術学部長、東京大学から五神真前総長、グローバル・コモンズ・センター（以下、CGC）ダイレクターの石井菜穂子理事が登壇し、**本学学生も交え、「アートを通してSDGsを考える」と題して意見を交わしました。**

また、8月27日には、「SDGs×ARTs展 オンライン トークイベント」を開催し、SDGs専門家を交え、展示作品についてのコメントや講評のほか、**SDGsとアートが繋がる可能性についてクロストークを実施しました。**

ウェビナーおよびオンライントークイベントは、いずれも令和4年3月時点でアーカイブ動画の視聴者数が2,000名を超えており、**本学における「SDGs×ARTs」の多様な取り組みと、その可能性について、広く発信する機会となりました。**

学部・研究科の実績

美術学部・研究科

特別支援学校等と連携した美術教育に関する研究・実践の推進

本学の美術研究科美術教育研究室を中心として、東京都教育委員会との共同事業として「第6回東京都特別支援学校アートプロジェクト展」を令和4年1月に本学の大学美術館陳列館で開催し、東京都の特別支援学校では、在籍する児童・生徒一人一人が有する芸術に関する才能の伸長を促すため、芸術教育の推進に取り組んでおり、同展覧会により、**児童・生徒の優れた才能をより多くの方々に知っていただき、障害のある方に関する理解促進を図りました**(入場者数2,482人)。



また、東京都立王子特別支援学校からの受託研究において、美術研究科美術教育研究室の教員とデザイン専攻の教員とが協働して取り組み、王子特別支援学校にある「王子Cafe」を対象とした、生徒の作品を生かした空間デザインを主題とし、同学校の美術科教員とも協議検討を重ね、**最終的に展示された生徒作品によって、「こもれび」を感じられるような柔らかな色合いのカフェ空間を実現したほか、**

東京都立八王子特別支援学校からの受託研究において、美術研究科美術教育研究室の教員と工芸専攻陶芸研究室の教員とが協働し、肢体不自由児の陶芸・塑造の授業の充実についての研究に取り組み、陶芸研究室教員の陶土や焼成に関する指導・助言により、**肢体不自由のある児童生徒の陶芸制作を充実したものにすることができました。**

財務情報

(単位: 百万円、単位未満切り捨て)

教育研究環境への投資状況

98

主な内容

- ・彫刻棟の老朽化に伴い、改修工事および設備更新を実施し、実習環境の改善に取り組んでおります。
- ・取手校地共通工房棟の設備整備を実施し、実習環境の改善に取り組んでおります。

財源の内訳

運営費交付金	33
授業料・その他自己収入	40
目的積立金	20
寄付金	-
施設整備費	-
補助金	5

運営状況

費用 2,989

収益 3,140

教育経費	643	運営費交付金収益	1,550
研究経費	206	学生納付金収益	1,140
教育研究支援経費	2	外部資金	351
受託研究他	141	自己収入	25
人件費	1,941	その他	74
一般管理費	56		
その他	0		

外部資金の内訳

受託研究収益	78
共同研究収益	3
受託事業等収益	117
寄附金収益	84
施設費収益	8
補助金等収益	59

Sir Elton John Global Exchange Programmeへの参加開始

音楽学部および大学院音楽研究科はSir Elton John Global Exchange Programmeへの参加を開始しました。このプログラムは、英国王立音楽院が主導し、同音楽院の卒業生であるエルトン・ジョン卿の寄付による基金で行われるもので、本学を含め世界各国の12の音楽大学が参加する、才能ある若い音楽家たちのグローバルモビリティと国際的なコラボレーションを促進する新しい取組です。

これにより本学の学生が、英国王立音楽院、ジュリアード音楽院、パリ国立高等音楽・舞踊学校ウィーン音楽大学等の世界トップレベルの高等音楽教育機関に所属する学生による新たな国際教育交流に参加できるようになり、具体的な学生支援として、年間最大20人が短期の交流プロジェクト参加のための旅費や、1学期または1年間の交換留学ための授業料を受給することなどが予定されています。

第一回藝大ピアノコンクールの開催および受賞者の決定

令和3年8月、本学において「第一回 藝大ピアノコンクール」が行われ、外部審査委員4名による厳正な審査の結果、応募者35名での予選後6名が本選に進み、本選の結果受賞者3名が決定しました。同年10月に授賞式が行われ、受賞者には奨学金が贈られ、受賞者演奏会が令和4年1月にカワイ表参道コンサートサロン「パウゼ」で、4月にヤマハ銀座コンサートサロンで開催されました。

「藝大ピアノコンクール」は、株式会社ヤマハミュージックジャパンおよび株式会社河合楽器製作所の寄附により基金が設立され、令和3年度に第一回を開催することとなった本学における新しい取組です。ピアノを専攻とする附属音楽高校生から大学院生までを対象とし、審査委員は学内の教員ではなく、学外より専門家を招き評価を受けることによって、これからの課題への新しい視点を獲得の機会とすることを目的としています。

財務情報

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

教育研究環境への投資状況

110

主な内容

・音楽学部教育棟の老朽化に伴って、施設長寿化および設備更新を実施し、実習環境の改善に取り組んでいます。

財源の内訳

運営費交付金	13
授業料・その他自己収入	68
目的積立金	24
寄付金	-
施設整備費	-
補助金	5

運営状況

費用	2,191	収益	2,192
教育経費	481	運営費交付金収益	970
研究経費	53	学生納付金収益	928
教育研究支援経費	2	外部資金	167
受託研究他	29	自己収入	38
人件費	1,593	その他	89
一般管理費	33		
その他	0		

獲得外部資金の内訳

受託研究収益	40
共同研究収益	1
受託事業等収益	3
寄附金収益	66
施設費収益	17
補助金等収益	37

GEIDAI GAMES 03 大学院映像研究科ゲームコース展の開催



<https://games.geidai.ac.jp/03/index.html>

大学院映像研究科では、令和元年4月にゲームコースを発足し、令和3年度は第二期の修了生を送り出しました。

その修了作品を中心とした、ゲームコースの成果発表展覧会「GEIDAI GAMES 03 東京藝術大学大学院映像研究科ゲームコース展」を令和4年3月にオンラインとリアル展示を併用して開催し、展覧会では、ゲームコース第二期生の「修了制作」、第三期生の「1年次制作」、南カリフォルニア大学(USC)映画芸術学部の学生との共同プロジェクト「東京藝大×USC 共同制作」の中間発表などを公開しました。

会期中には、本学とUSCの教員や産業界の専門家による公開講評会や、ゲーム実況者によるゲーム体験の様子の映像配信、作者本人によるライブ作品解説等を実施しました。

財務情報

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

教育研究環境への投資状況

90

主な内容

・デジタル技術を活用した新たな芸術領域の開拓に資する設備整備を実施し、教育研究活動の充実化に取り組んでおります。

財源の内訳

運営費交付金	59
授業料・その他自己収入	8
目的積立金	16
寄付金	-
施設整備費	-
補助金	7

運営状況

費用	560	収益	566
教育経費	168	運営費交付金収益	362
研究経費	64	学生納付金収益	110
教育研究支援経費	0	外部資金	80
受託研究他	22	自己収入	0
人件費	302	その他	14
一般管理費	4		
その他	0		

獲得外部資金の内訳

受託研究収益	0
共同研究収益	2
受託事業等収益	20
寄附金収益	14
施設費収益	0
補助金等収益	43

学生の企画・運営による展覧会「Welcome, Stranger, to this Place」の開催

令和3年3月から4月にかけて、本学の大学美術館陳列館で、学生の企画・運営による展覧会「Welcome, Stranger, to this Place」を開催しました。この取組は、**大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻のキュレーション領域における授業の一環として実施されるもので、教員監修のもと、同専攻の学生が主体的に実務レベルでのキュレーションを学びながら、国内外のアーティストを招き、展覧会を開催するものです。**

「Welcome, Stranger, to this Place」展では、**世界中の人々が移動を制限されている現状において、それぞれの場所で様々な問題に向き合う作家と作品を国内外から招集し、実際の展示空間と、それを撮影し制作したバーチャルな展示空間によるハイブリッドな展覧会を構成し、フィリピン、中国、ロシア、サウジアラビア、そして日本など多様な文化的背景をもつ学生たちの共同キュレーションによって、自分の知らない場所の記憶や物語に向き合う方法を模索し、会期全体で2,122名の観客を集めました。**



<https://welcome.geidai.ac.jp/#online>

財務情報

(単位:百万円)

教育研究環境への投資状況

1.6

主な内容

・オンラインによる国際交流プロジェクト実施を促進するための備品等を整備し、教育研究活動の充実化に取り組んでおります。

財源の内訳

運営費交付金	0.9
授業料・その他自己収入	0.7
目的積立金	-
寄付金	-
施設整備費	-
補助金	-

運営状況

費用	194	収益	199
教育経費	16	運営費交付金収益	150
研究経費	30	学生納付金収益	31
教育研究支援経費	1	外部資金	17
受託研究他	13	自己収入	0
人件費	133	その他	1
一般管理費	1		
その他	0		

獲得外部資金の内訳

受託研究収益	0
共同研究収益	0
受託事業等収益	0
寄附金収益	3
施設費収益	0
補助金等収益	14

令和 3 事業年度決算

財務諸表等の概要

国立大学法人では、国民その他ステークホルダー（利害関係者）に対し財政状態や運営状況に関する説明責任を果たし、自己の状況を客観的に把握する観点からの作成及び公表が義務付けられています。ここでは、皆様に本学の財務状況をお伝えするために、令和 3 年度決算のポイントを説明します。

正式な財務諸表等は、こちら（東京藝術大学HP）に掲載されています。

https://www.geidai.ac.jp/information/info_public/legal/library_of_legalinfo#FinancialInformation

1. 貸借対照表の概要

(単位：百万円、単位未満切り捨て)				
科目	(令和 2 年度)	令和 3 年度	増減	増減比
資産の部	(71,549)	71,077	△ 472	-1%
【主な科目】				
土地	(37,292)	37,292	0	0%
建物・構築物	(21,185)	20,674	△ 511	-2%
工具器具備品 ※1	(525)	548	22	4%
図書	(1,443)	1,479	35	2%
美術品・収蔵品	(4,962)	4,992	29	1%
現金及び預金 ※2	(4,879)	4,045	△ 834	-17%
負債の部	(11,107)	10,738	△ 368	-3%
【主な科目】				
資産見返負債	(3,862)	4,225	362	9%
長期前受収益	(1,939)	1,851	△ 88	-5%
運営費交付金債務 ※3	(404)	0	△ 404	-100%
寄附金債務	(2,820)	2,707	△ 112	-4%
未払金	(1,142)	1,238	96	8%
純資産の部	(60,442)	60,338	△ 103	0%
【主な科目】				
前中期目標期間繰越積立金	(71)	71	0	0%
目的積立金	(538)	580	41	8%
当期末処分利益	(222)	414	192	86%

対前年度増減比率が大きい科目とその主な増減要因

- ※1 工具器具備品：機能強化予算や目的積立金による機器の取得等により、前年度より増加している。
- ※2 現金及び預金：有形固定資産や投資有価証券の取得による支出の増加等により、前年度より減少している。
- ※3 運営費交付金債務：第3期中期目標期間最終年度における債務残高の収益化により、運営費交付金債務の残高は0となっている。

2. 損益計算書の概要

(単位：百万円、単位未満切り捨て)				
科目	(令和2年度)	令和3年度	増減額	増減比
経常費用	(8,784)	9,071	286	3%
【主な科目】				
教育経費	(1,589)	1,654	65	4%
研究経費 ※1	(404)	499	95	24%
受託研究費等	(648)	698	49	8%
人件費	(5,294)	5,350	56	1%
一般管理費 ※2	(494)	302	△ 192	-39%
経常収益	(8,927)	9,266	338	4%
【主な科目】				
運営費交付金収益	(4,839)	5,158	319	7%
学生納付金収益	(2,100)	2,226	126	6%
受託研究等収益等 ※3	(654)	753	98	15%
寄附金収益	(321)	295	△ 26	-8%
施設費収益 ※4	(291)	128	△ 163	-56%
補助金等収益	(291)	247	△ 43	-15%
入場料収入 ※5	(4)	33	28	583%
公開講座等収入 ※5	(33)	52	18	54%
経常利益	(143)	194	51	36%
臨時損失	(46)	0	△ 45	-98%
臨時利益 ※6	(10)	129	119	1178%
目的積立金等取崩額	(115)	91	△ 23	-21%
当期総利益	(222)	414	192	86%

対前年度増減比率が大きい科目とその主な増減要因

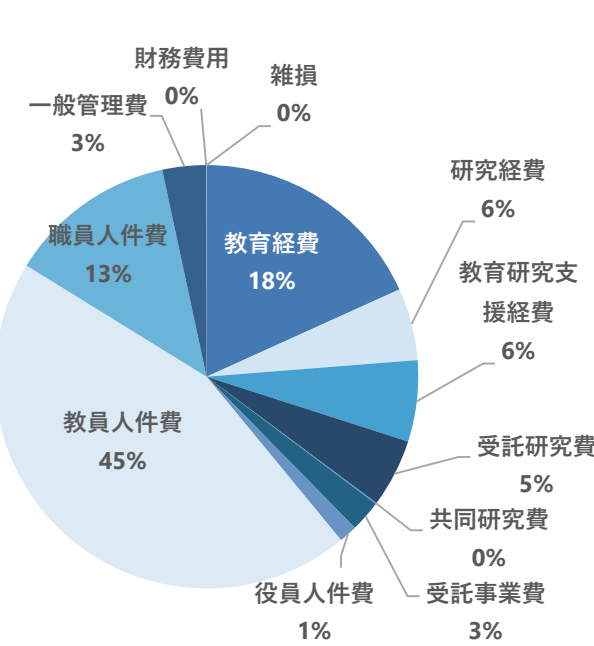
※1 研究経費、※5 入場料収入、公開講座等収入：コロナ禍ではあったが前年度より研究活動が活発化し、展覧会・演奏会・公開講座等の実施を再開したこと等により、前年度より増加している。

※2 一般管理費、※4 施設費収益：前年度は大型の施設整備事業があり一般管理費執行額および施設費収益が多額だったため、対前年度比で減少している。

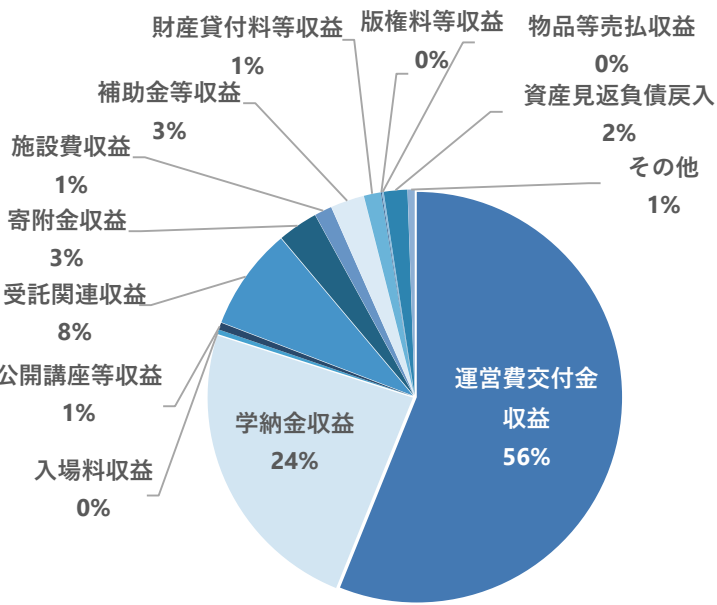
※3 受託研究等収益：大型の受託研究等が終了し収益化したため、前年度より増加している。

※6 臨時利益：第3期中期目標期間最終年度における運営費交付金債務残高の収益化等により、前年度より増加している。

経常費用の内訳



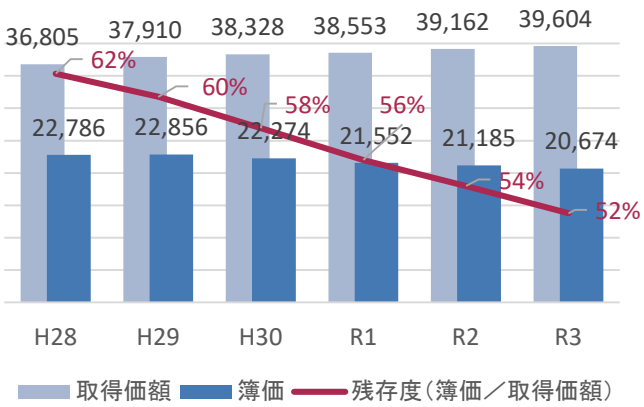
経常収益の内訳



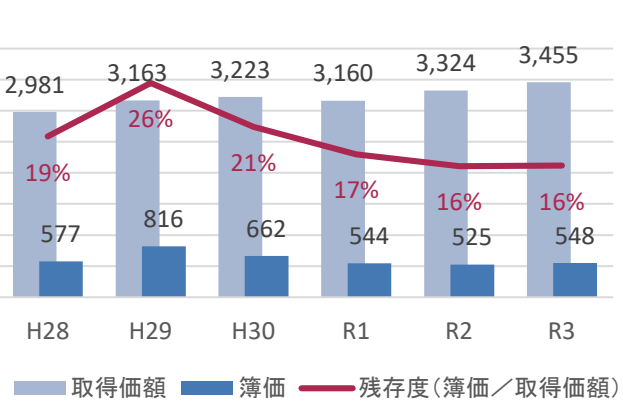
3. 有形固定資産

(単位：百万円)

施設(建物・構築物)の推移



設備(工具器具備品)の推移

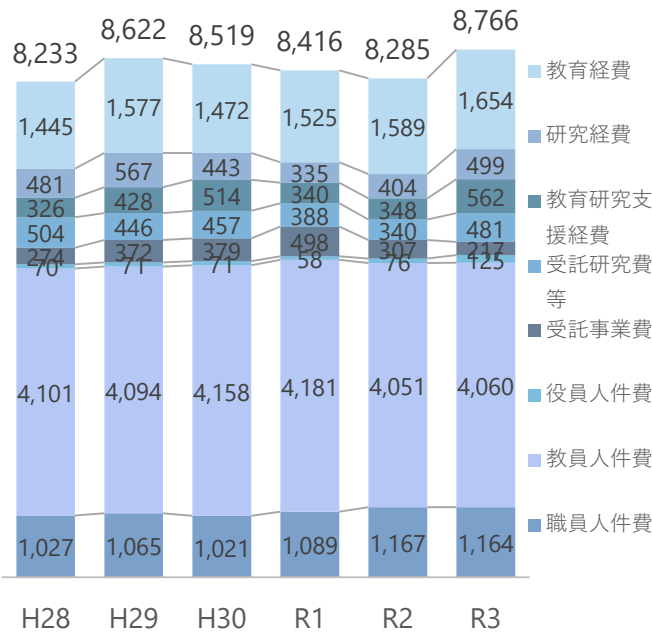


施設・設備への投資により取得価額が増加している一方で、簿価は減少しているため、施設・設備の老朽化・陳腐化が進んでいることがわかる。残存度(簿価/取得価額)も減少傾向にあるため、投資は進んでいるが、それ以上に老朽化・陳腐化が進んでいることがわかる。

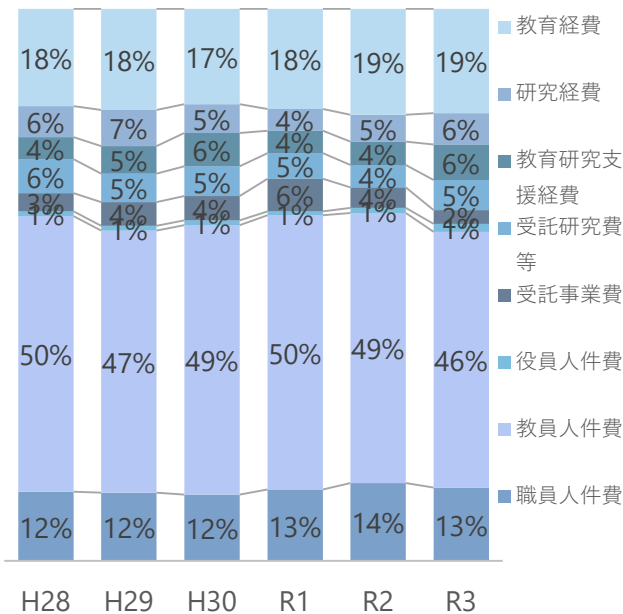
令和3年度については、機能強化予算や目的積立金による機器類の更新を進めたため、設備(工具器具備品)の簿価及び残存度のポイントが下げ止まっている。

4. 業務費

業務費の金額の推移 (単位：百万円)

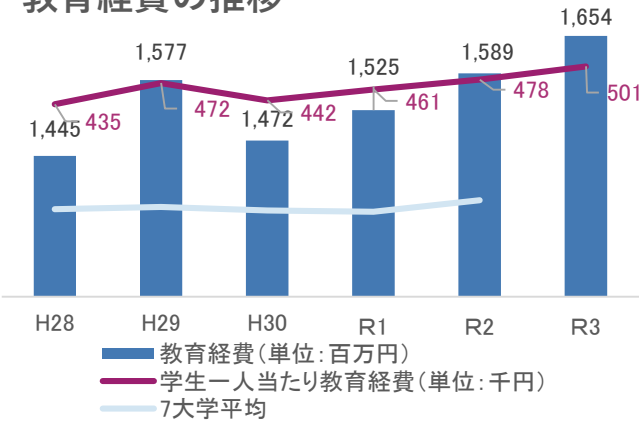


業務費の割合の推移



5. 教育経費・研究経費

教育経費の推移

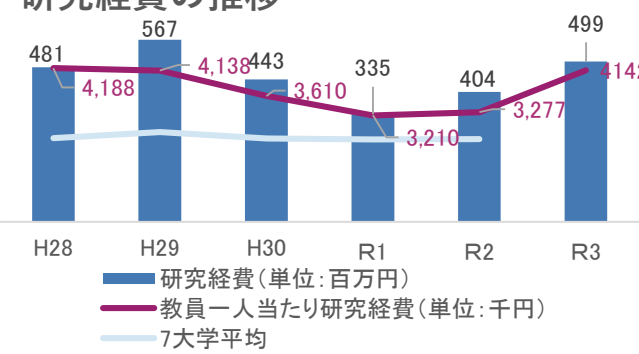


教育経費は、令和元年度以降増加傾向にある。令和3年度については、奨学交付金の増加等により増加した。
学生一人当たり教育経費については、近年、同グループの7大学の平均を上回る傾向にある。

学生一人当たり教育経費：学生当たりの教育経費であり、この数値が大きいほど学生一人当たりにかけられた教育目的の物件費等が大きいことを示す。

7大学：文科系7大学（小樽商科大学、福島大学、筑波技術大学、東京外国語大学、東京芸術大学、一橋大学、滋賀大学、大阪外国語大学）

研究経費の推移



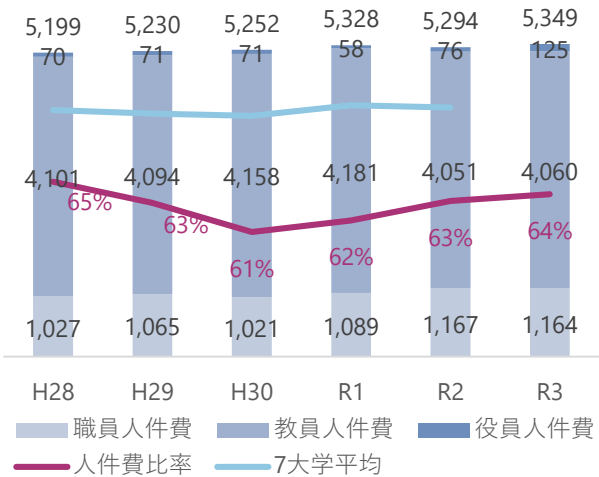
研究経費は令和2年度以降増加傾向にある。令和3年度については、機能強化予算の執行や展覧会関係委託費の増加等により増加した。
教員一人当たり研究経費については、近年、7大学平均を上回る傾向にある。

教員一人当たり研究経費：常勤教員当たりの研究経費であり、この数値が大きいほど教員一人当たりにかけられた研究目的の物件費等が大きいことを示す。

6. 人件費・一般管理費

人件費の推移

(単位：百万円)



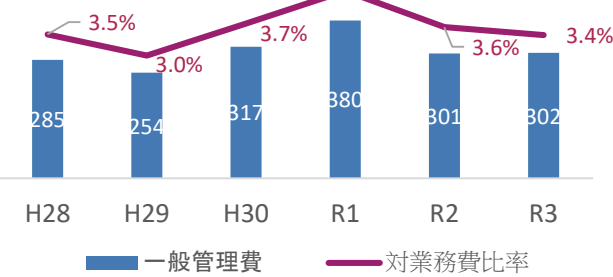
令和3年度は役員の退職手当の増加等により人件費が増加した。
他大学と比較すると、人件費比率は近年、7大学平均を下回る傾向にある。

人件費比率：人件費が業務費に占める割合を示す指標。この数値が高いほど、学内の教育・研究等の業務が主に教職員等の人材に依っていると解釈できる。

一般管理費の推移

(平成30年度分についてはPCB廃棄物処理費への支出255百万円を除いた金額を表示)
(令和2年度分については取手校地ライフライン再生工事に係る支出193百万円を除いた金額を表示)

(単位：百万円)

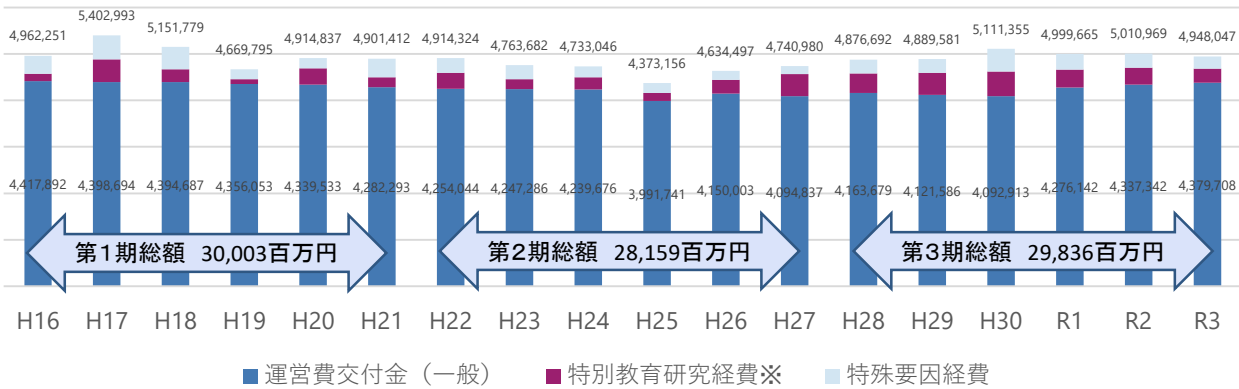


一般管理費については、平成30年度から令和元年度にかけて増加したが、主な要因は台風等の災害による設備等の修繕費の増、老朽化による修繕工事の増等の影響であった。
令和2年度以降は、コロナ禍における大学全体の水道光熱費の減少等により減少傾向にある。

7. 運営費交付金

運営費交付金措置額（追加配分含む、復興特別会計除く）

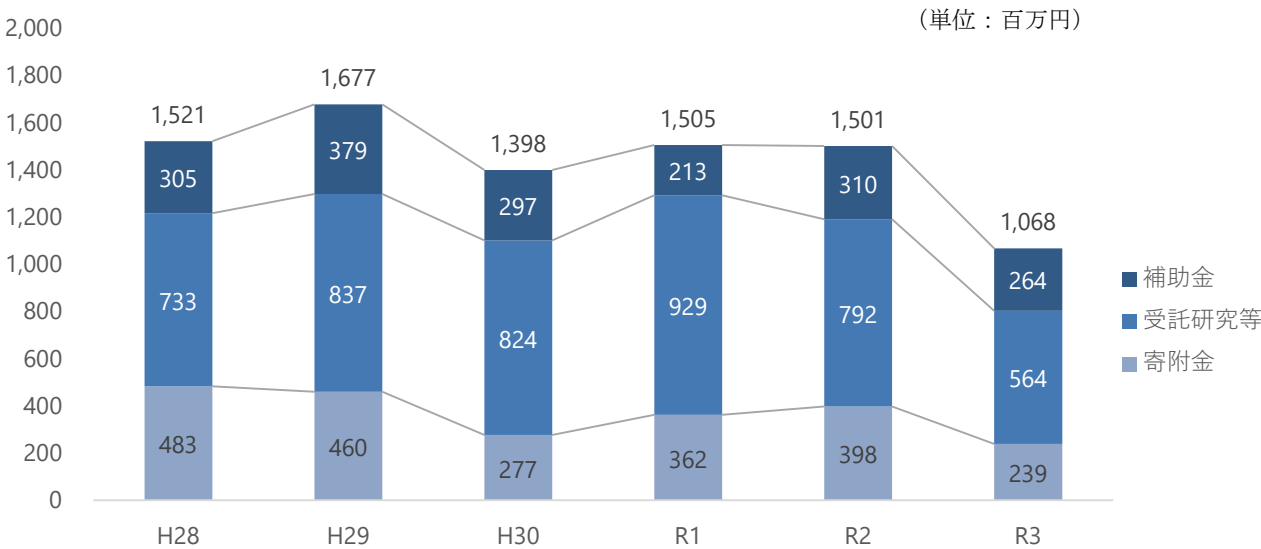
※H16～H21:特別教育研究経費
H22～H27:特別経費
H28～：機能強化経費



運営費交付金措置額については、国立大学全体の予算額が減少傾向にある中、第2期と比較して第3期は措置額が増加した。

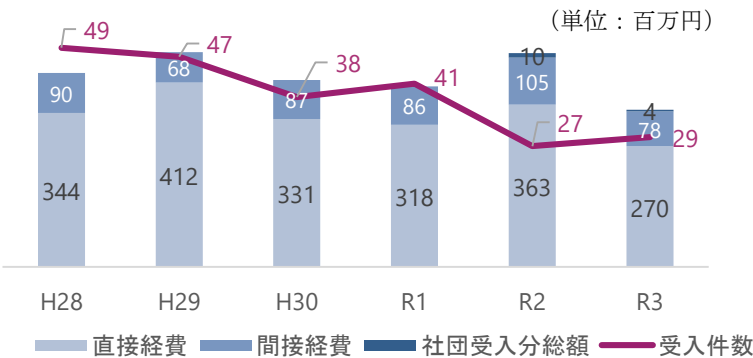
8. 外部資金

外部資金の推移（平成28年度の寄附金から1件分（10億円）マイナス）



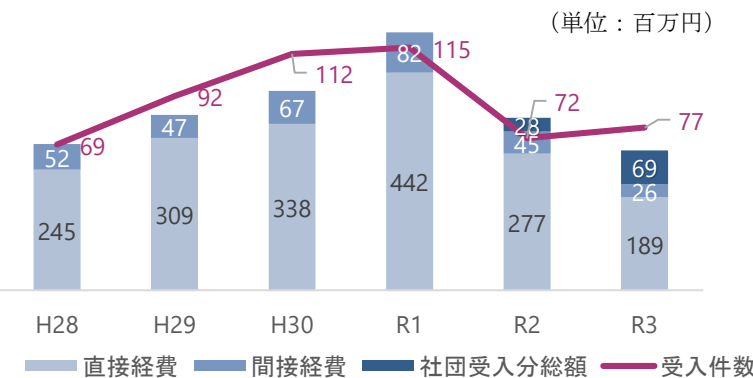
9. 受託研究等

受託研究等の受入額・受入件数の推移



受託研究等の受入額については、大型の受託研究の受入額の増減による影響が大きい。（大型の受託研究の受入額が、令和2年度は増加し、令和3年度は減少した。）
受入件数については、減少傾向にある。

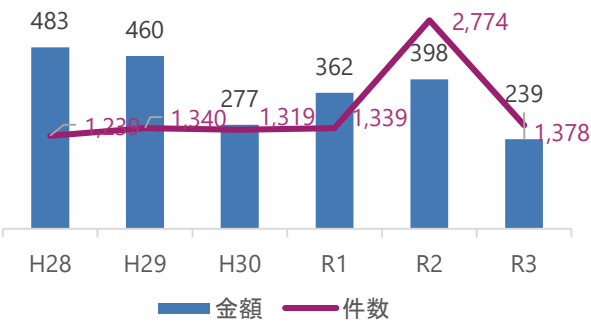
受託事業等の受入額・受入件数の推移



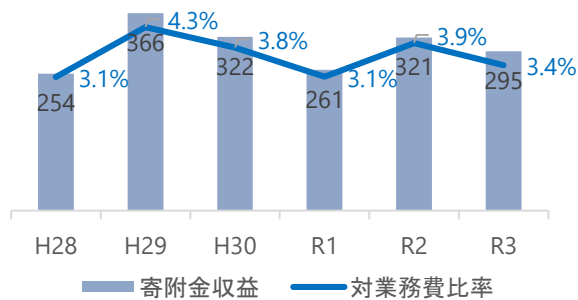
受託事業等については、受入額・受入件数ともに令和元年度までは増加傾向にあったが、令和2年度以降はコロナ禍の影響等により減少している。

10. 寄附金

寄附金受入額の推移
(平成28年度の寄附金から1件分(10億円) マイナス)



寄附金収益の推移 (単位: 百万円)

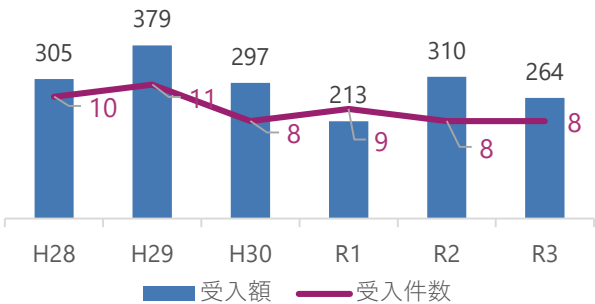


寄附金については、クラウドファンディングの減少や大型の助成金の終了等により、令和3年度は減少している。
寄附金収益及び対業務比率の推移を見ると、寄附金収益の増減に伴い対業務費比率も同様に推移していることから大学業務全体に占める寄附金への依存度は変化していないといえる。

11. 補助金等

(単位: 百万円)

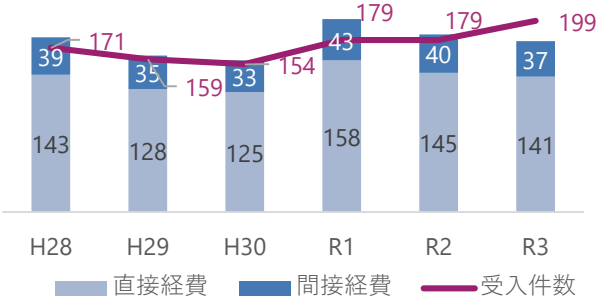
補助金等の受入額・受入件数の推移



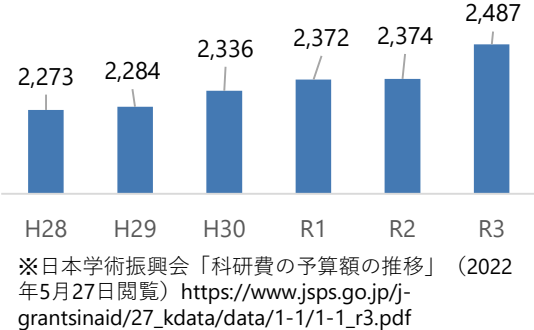
補助金等の受入件数は同程度で推移しているが、受入額については大型の補助金の有無等により毎年変動がある。令和3年度は、国際化拠点整備事業費補助金(大学の世界展開力強化事業等)の受入減少等により、受入額が減少した。

12. 科研費

科研費の受入額・受入件数の推移



国の科研費の予算額の推移 (単位: 百万円)



科研費の受入額についてはやや下落傾向にあるが、受入件数は増加傾向にある。一方、国の科研費の予算額は近年増加傾向となっている。



TOKYO GEIDAI

作成：国立大学法人東京芸術大学 戦略企画課

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

本財務報告書は、東京芸術大学ホームページに掲載しております。

URL：https://www.geidai.ac.jp/information/info_public/legal